

IV-59 パブリックインボルブメント導入による歩道整備に対する地域住民の評価

秋田工業高等専門学校 環境都市工学科 ○学生員 石塚 未来
秋田工業高等専門学校 環境都市工学科 正 員 折田 仁典

1. はじめに

平成10年からの道路計画において、広く国民から意見を求めるパブリックインボルブメント（PI）方式が導入されることとなった。この方式は今後各種の公共事業に関して導入が展開されるものと予想されるが、現在のところその実施方法・実施効果の計測手法などは確立されておらず、将来的にも重要な課題といえる。本研究は、このような問題認識のもとに、パブリックインボルブメント方式によって整備された歩道（バリアフリー）について、アンケート調査に基づき分析検討を加えたものである。

2. 歩道整備の経緯

パブリックインボルブメント方式導入対象とした歩道は秋田県能代市を通過する国道7号の歩道である。この歩道は歩行者空間整備の先行事業として「バスケットの街能代」をイメージするためにバスケットボールリングを模した照明灯設置が進められており、市民の認知度の高い歩道である。以前の歩道は幅5mの植樹帯に2mの歩道があり、これを今回の試みではバリアフリーの観点から植樹帯を狭め、歩道幅員を3mに拡張した事業である。整備対象区間は約1.5kmである。

3. 調査の概要

調査は平成11年8月に国道7号「能代幅広歩道」沿線の住民と事業者を被験者として実施した。調査項目は、今後の生活環境整備における住民参加への関心、完成後の歩道の評価、及び整備手順についてなどである。調査票の回収率は72.3%（配布数400票、回収289票）であった。

写真—1 整備前

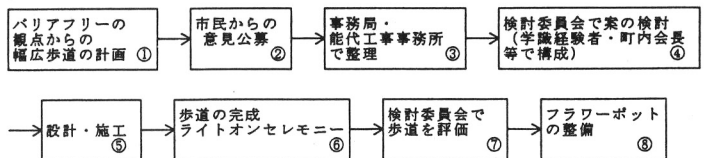


写真—2 整備後



4. パブリックインボルブメント導入手順の評価

図—1は歩道整備の際の手順である。市民からの意見募集は図の②の段階で行われており、今回の調査はすべての段階が終了した時点で行った。図—2は、全体的にみて住民参加型の整備方法はどう



図—1 パブリックインボルブメント導入手順

だったか質問した結果である。約半数の人が「この方法で良かった」と回答し、「この方法でよいが改良すべき点もある」も合わせると9割を占めることから、今回の整備方式についてはほぼ、住民の理解を得られ

たと思われる。

5. 歩道の評価

図一3は完成後の歩道の評価について分析を行ったもので、項目は図に示す「歩道の幅について」から「歩道の街灯の明るさについて」までの12アイテムである。分析結果を見ると、「歩道の幅」と「透水性舗装」についての評価がとくに高いが、これらは住民からの要望が多かった項目である。透水性舗装については、以前は写真一1のように水たまりが通行を妨害していたのでその効果は大きいと言える。

表一1は完成後の歩道の評価について数量化理論第Ⅱ類を適用し要因分析を行ったものである。評価項目は表に示す12アイテム、外的基準は「総合的に見た歩道の整備状況」である。外的基準に最も影響を与えているのは「歩道の幅」であり、次いで「透水性舗装」であった。また、比較的影響度が小さかったのは休息スペースについての項目で、憩いの場としての役割より実用性が重視されたと推測される。

6. まとめ

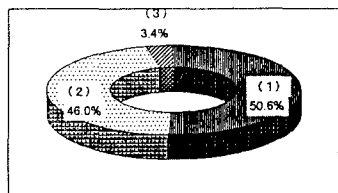
(1) 整備手順については、ほとんどの質問において評価は良かった。しかし、PRについてはもっとすべきだとの意見もあり、今後の住民参加事業における改善が望まれる。また、手順の中で住民が参加する機会がもっとあればよいという意見（例：歩行者に対する直接の聞き取り調査）があり、参加意欲の高さがうかがわれる。

(2) 完成後の歩道の評価

完成後の歩道の評価については、景観などを含めて全体的に良い評価が得られた。顕著だったのは「歩道の幅」「透水性舗装」「舗装表面の歩きやすさ」など、安全な通行に関する項目であった。歩道整備後に行われた検討委員会メンバーによる評価は極めて良く、地域住民の評価結果とも勘案すれば、今回のパブリックインボルブメント

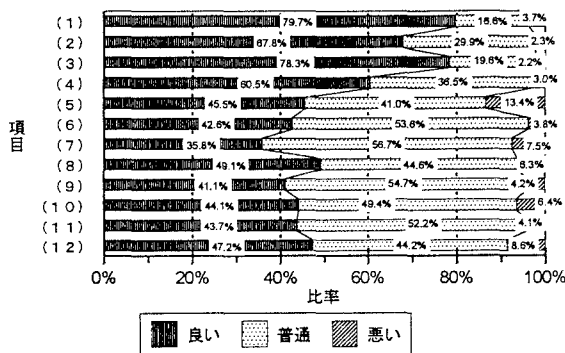
(PI)方式導入による歩道整備

は成功の一例と言える。なお、本調査・分析は建設省東北地建能代工事事務所石塚副所長他職員の方々と共同で実施したものである。また、調査票の配布回収には歩道沿線の町内会長のご協力を頂いた。ここに合わせて感謝の意を表する。



- (1) この方法で良かった
- (2) この方法でよいが改良すべき点もある
- (3) これ以外の方法を考えた方がよい

図一2 パブリックインボルブメント導入手順の評価



- (1) 歩道の幅について
- (2) 点字ブロックについて
- (3) 透水性舗装
- (4) 舗装表面の歩きやすさについて
- (5) 歩道・車道間の出入りの際の見通しについて
- (6) 休息スペースの広さについて
- (7) 休息スペースの数・設置場所について
- (8) 植樹帯の幅について
- (9) 側溝のデザインについて
- (10) 歩道と車道・歩道と商店の間の段差について
- (11) 植樹帯と歩道の間の緑石について
- (12) 歩道の街灯の明るさについて

図一3 歩道の評価

表一1 歩道整備に影響を及ぼす要因

アイテム	カテゴリ	係数	レンジ	アイテム	カテゴリ	係数	レンジ
x1 歩道の幅について	良い	-3.1432	3.1432	x7 休息スペースの数・設置場所について	良い	0.6795	0.7738
	普通	-2.7196			普通	0.7738	
	悪い	(0)			悪い	(0)	
x2 点字ブロックについて	良い	-1.5743	1.5743	x8 植樹帯の幅について	良い	-0.9580	0.9580
	普通	-1.4714			普通	-0.9396	
	悪い	(0)			悪い	(0)	
x3 水たまりのできにくい舗装(透水性舗装)について	良い	-2.3047	2.3047	x9 側溝のデザインと排水機能について	良い	0.8353	0.8353
	普通	-2.2844			普通	0.7916	
	悪い	(0)			悪い	(0)	
x4 舗装表面の歩きやすさについて	良い	1.7312	1.9163	x10 歩道と車道、歩道と商店等の間の段差について	良い	-2.0857	2.1680
	普通	1.9163			普通	-2.1680	
	悪い	(0)			悪い	(0)	
x5 歩道・車道間の出入りの際の見通しについて	良い	0.4532	0.6630	x11 植樹帯と歩道の間の緑石(ブロック)の高さについて	良い	-2.1169	2.1169
	普通	0.6630			普通	-2.0116	
	悪い	(0)			悪い	(0)	
x6 休息スペースの広さについて	良い	-0.5624	0.5624	x12 歩道の街灯の明るさについて	良い	-0.4080	0.4080
	普通	-0.5444			普通	-0.3476	
	悪い	(0)			悪い	(0)	
相関比						0.6801	